

編集後記

国立大学が昨年より法人化する以前の数年前から内外の激しい情勢変化があり、忙しくとも流されずに大事な点を保つことが大変で、「不易流行」などと言いにくなってきた。勿論長い歴史から見ると、変化がない安定した時代はあまりなく変革は常にあるもので、それに上手く対処し乗り越えていくことが必要である。

昨年、7回もスペースシャトルに搭乗した記録を持つ知り合いのNASAの宇宙飛行士に会った際、地球を初めて見た時に何を感じたかを聞いた。古くは「地球は青かった」「神を感じた」などの宇宙飛行士からの言もあるが、彼は「地球はゼリーのように壊れやすく大事にしないといけない気持ち」となったそうである。これは地球への負荷をできるだけ軽減する環境問題にも繋がるが、一方大きく物を見ることの大事さを感じる。たまには日頃の小さなことを忘れ、外では星空を、山上から下界を、大海原を、家では地球儀、世界地図、宇宙の写真などを見て、大きなおおらかな気持ちでリラックスしてよく考えることが大事である。

自分が宇宙飛行士となり、解放された重力下で地球や月を眺めているのを想像するのも楽しい。因みにその宇宙飛行士は、宇宙遊泳中に気がついたら明るい光、つまりオーロラ中を短時間ながら通過していたという。高緯度の地上からのオーロラショーだけでなく、放射線障害は大丈夫かなどとは考えず、この魅了・幻惑された光景に触れてみたい気がする。ただし、太陽系全体や銀河系を越えたスケールでの存在を想像すると足元が怪しくなり不安な感も出て来るので、そこそこのサイズにするのが良いかもしれない。

先日満月を子供達と共に、倍率の高い双眼鏡で見て敬虔な気持ちを改めて持ち、子供の時に見た星空と遙かなるものへの憧れ、少し不安だが豊かな未来を想像したことを思い出した。たまには宇宙関連の地図や土星探査機「カッシーニ」の撮った写真を見たり、日本のプラズマロケット「はやぶさ」がイトカワへ迫っているのにわくわくしたりするのも良い。

(篠原俊二郎)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	高村 秀一	副 会 長	山中 龍彦 藤原 正巳	常務理事	岡村 昇一 (総務委員長)
理 事	今井 剛 奥野 健二 佐藤浩之助 畠山 力三 (企画委員長) 森 雅博		榎戸 武揚 (広報委員長) 尾崎 章 (財務委員長) 田中 和夫 (プログラム委員長) 堀岡 一彦 (広告委員長) 吉田 善章 (編集委員長) 藤山 寛		岡野 邦彦 (出版委員長) 際本 泰士 二宮 博正 松岡 啓介
監 事	長谷川 満				

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター 吉田善章 (東大新領域)

エディター 関子秀樹 (九大)、関 昌弘 (原子力機構)、田中雅慶 (核融合研)、西村博明 (阪大)、福山 淳 (京大)、藤山 寛 (長崎大)

編集委員 荒巻光利 (名大)、飯塚 哲 (東北大)、岩尾 徹 (武蔵工大)、岩切宏友 (九大応力研)、岩前 敦 (京大院工)、上田良夫 (阪大院工)、江角直道 (長野高専)、片沼伊佐夫 (筑波大プラズマ)、門 信一郎 (東大高温プラズマ)、菅野龍太郎 (核融合研)、近藤公伯 (阪大院工)、榊田 創 (産総研)、重森啓介 (阪大レーザー研)、篠原俊二郎 (九大院総理工)、鈴木 哲 (原子力機構)、妹尾和威 (核融合研)、高杉恵一 (日大量科研)、高橋栄一 (産総研)、永岡賢一 (核融合研)、服部邦彦 (東北大院工)、林 康明 (京都工繊大)、檜垣浩之 (筑波大プラズマ)、増崎 貴 (核融合研)、南 貴司 (核融合研)、山内有三 (北大院工)、山本 靖 (京大エネ理工研)、山本 巧 (原子力機構)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第81巻第11号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市中種区内山3丁目1-1 4階

社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: jspf@nifs.ac.jp URL: <http://www.jspfor.jp/>

印刷 株式会社荒川印刷

2005年 (平成17年) 11月25日

定価1,365円 (本体1,300円)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は (社) プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月、第1金曜日に開かれています。但し、第1金曜日が休日あるいは5日以降の場合はその前週の金曜日に開かれます。